88

特279
355
特279-355
*76W10962 *

泉員 北吟吉述

動亂の歐洲情勢

日本協會發行

81

始

露光量違いの為重複撮影

本書は昨年十一月二十八日、北先生が萬國議員會議より歸朝の第一聲として本會講演會に於て講演されたもので、歐洲動亂の眞只中に在ること月餘、更に亞米利加に渡り一箇月餘滯在して、今次動亂勃發の原因並に其の性質及將來の見透し等を、凡有る角度より仔細に研究觀察し、以て複雜怪奇なる歐洲各國の裏面や其の動向を闡明せるものにして、來會者に多大の感銘を與へた。疾くに發行の豫定の所速記者の事故に依る反譯の遲延と、先生が東奔西走殆んど席温まる間もなき大多忙の爲に原稿の校閲をして頂く機を逸して遂に今日に至つた。

其の後歐洲の戰局は相變らずの膠着狀態で、果して戰爭擴大するに至るや、或は急速に平和を招來するや、今の所其の豫斷を許さない。本書は此の不可解な歐洲の實情を解く上に、又日本の今後進むべき方途に就て、幾多の指針と示唆を與へるもので、時局下必讀の良書と信ず。（筆者）

目次

一、萬國議員會議の模樣……一
二、露獨不可侵條約の發表……六
三、大戰勃發前の空氣……八
四、勃發當時の民情……一二
五、今次大戰の原因……一四
六、ロシアの目的とする所……一七
七、海洋國と大陸國の對立時代……二一
八、世界情勢の見透し……二五
九、獨逸の内情……二九
十、日本の進むべき道……三五

76W10962

上野乙郎
議著

動亂の歐洲情勢

衆議院議員　北　昤吉　述

一、萬國議員會議の模樣

ブルーウキーのオスローで、萬國議員會議が、八月十五日から、五日間に亘つて開かれた。私はそれに列席するため、船田、淺沼兩代議士と一緒に渡歐した。ドイツとイタリーは、總ての國際會議から脱退するといふので、代表者を送らなかつた。支那とロシアは、議會らしい議會がないので、是も代表者を送らなかつた。從つて私共としては、比較的日本に好意を持つて居る國も來て居らぬ代りには日本に一番惡口を言ひさうなロシアと支那が來て居らぬので、其の點は氣が楽であつた。その會議で、私は日本代表として發言した。

昨年は、大體、日本に對して風當りが強かつた。處が今年はドイツに風當りが強くなつて、日本の問題は今年はネグレクトされた。慢性になつた爲であらう。そこで私は簡單に、成るべく刺

昭和五年
南圖
文三

露光量違いの為重複撮影

本書は昨年十一月二十八日、北先生が萬國議員會議より歸朝の第一聲として本會講演會に於て講演されたもので、歐洲動亂の渦巻中に在ること月餘、更に亞米利加に渡り、前月餘滯在して、今次動亂勃發の原因並に其の性質及將來の見透し等を、凡有る角度より仔細に研究觀察し、以て複雜怪奇なる歐洲各國の裏面や其の動向を闡明せるものにして、來會者に多大の感銘を與へた。疾くに發行の豫定の所逢記者の事情に依る反譯の遅延と、先生が東奔西走殆んど暇遑まる間もなき大多忙の爲に原稿の校閲をして頂く機を逸して遂に今日に至つた。

其の後歐洲の戰局は相變らずの膠着狀態で、果して戰爭擴大するに至るや、或は急速に平和を招來するや、今の所其の豫斷を許さない。本書は此の不可解な歐洲の實情を解く上に、又日本の今後進むべき方途に就て、幾多の指針と示唆を與へるもので、時局下必讀の良書と信ず。（筆者）

目次

一、萬國議員會議の模樣……一
二、露獨不可侵條約の發表……六
三、大戰勃發前の空氣……八
四、勃發當時の民情……二
五、今次大戰の原因……一四
六、ロシアの目的とする所……一七
七、海洋國と大陸國の對立時代……二
八、世界情勢の見透し……二五
九、獨逸の內情……二九
十、日本の進むべき道……三五

76W10962

上野乙郎

議著

動亂の歐洲情勢

衆議院議員　北　昤吉　述

一、萬國議員會議の模樣

ノルーウエーのオスローで、萬國議員會議が、八月十五日から、五日間に亘つて開かれた。私はそれに列席するため、船田、淺沼兩代議士と一緒に渡歐した。ドイツとイタリーは、總ての國際會議から脱退するといふので、代表者を送らなかつた。支那とロシアは、議會らしい議會がないので、是も代表者を送らなかつた。從つて私共としては、比較的日本に好意を持つて居る國も來て居らぬ代りには日本に一番惡口を言ひさうなロシアと支那が來て居らぬので、其の點は氣が楽であつた。その會議で、私は日本代表として發言した。

昨年は、大體、日本に對して風當りが强かつた。處が今年はドイツに風當りが强くなつて、日本の問題は今年はネグレクトされた。慢性になつた爲であらう。そこで私は簡單に、成るべく刺

帝國議會

戦しないやうにといふので、「實は、日支事變がなければ、來年は紀元二千六百年であるから、萬國議員會議も日本へ招待したかつた。オリンピックも招待したかつた。あなた方は日本を見る機會が少い。來て見て下されば、日本をよく理解されると思ふが、誠に遺憾ながら、日支事變でこれが出來なくなつた。この日支事變の起つた理由に就ては、此處で述べる必要はないが、要するに東洋と兩立しない思想（赤化思想とは云はなかつたが）が支那へ流れ込んで、支那の一部の人々が之にかぶれてしまつて、我が建國の精神を危殆にする。その爲に日本は支那と友好關係を保つことが出來なくなつて、此の事變が起つた。併し支那の識者は、次第に東洋の思想と兩立せぬ思想を排斥する時代が來るであらう。其の時には、あなた方の希望して居る平和と秩序ある時代が東洋に來ると確信してゐる。」かういふ意味を簡單に述べて、當らず觸らずにして置いた。

若し攻擊して來れば、次の機會でと思つて居つたが、一般の空氣は寧ろドイツに對する恐怖心が強くて、ポーランド代表の如きは、盛んにドイツを攻擊して居つた。其の當時は、政府の方針で、殆んど全ドイツの新聞が筆を揃へて、ポーランドが惡辣なことをして居る、ポーランド國內に於けるドイツ人を虐待して居ると言つて、丁度チェッコを合併する前に、チェッコ人がドイツ系の人々を侮辱する、迫害すると書いたと同じ調子でポーランドを攻擊してゐた。ゲッベルス一

流の宣傳だ。それが各國の議員を非常に刺戟して居つた。會議でも、此の模樣では戰爭はあるかも知れぬといふ空氣があつた。又エヂプト代表の如きは、露骨に英國は國內に於てはデモクラシーを唱へて居るが、國外に於てはデモクラシー精神と悖ることをやつて居ると言つて攻擊した。

其の空氣を察してか、アメリカ代表のハミルトン・フィッシュが、「三十日間の戰爭モラトリアム案」といふものを出した。それはドイツ、イタリー、フランス、イギリスの四箇國政府の全責任を持つた者が集まつて、ポーランド問題、其の他ヨーロッパ問題を解決する事が肝要である。その爲に、一月の間は斷じて干戈に訴へないことを約束して貰ひたい、といふのであつた。處が其の中には、ロシアも入れて居らぬし、アメリカも入れて居らぬ。といふのは、ハミルトン・フィッシュは共和黨で孤立主義者である。孤立主義者ではヨーロッパの平和を保つ爲に、アメリカが加はらなければならぬとは言へない。言へば自繩自縛に陷るのである。けれども其處が、アメリカ人で、歐洲の形勢が前述したやうなものだから、さういふ提案を出した。

しかし誰でも其の精神は諒としたが、アメリカが加はらないでは無力だといふ感じがして居つた。今一つは、四箇國だけで小國の運命を決することには、小國中に不安を感ずるものがある。例へば、ルーマニアのベッサラビアはどうするとか、トランシルバニアは、ハンガリーに還さな

ければならぬといふことも出て來るかも知れぬ。ポーランドの場合では、ダンチツヒ・コリドールを還さなければならぬといふ議論が出るかも分らぬ。それで折角の提案も割合に人氣がなかつた。十六日に提案したのであるが、最後の十九日に修正されて、毒にも藥にもならぬやうな決議になつてしまつた。卽ち萬國議員會議は、人民の意志を代表して干戈に訴へずして、總てのヨーロッパの差迫つた問題を平和的に解決せしむることを希望するといふのであつた。

元來、萬國議員會議なるものは、各國間の友誼關係、相互の諒解を助長するといふのが主なる目的で、世界平和を確保することも目的であるが、其の點餘り役立たぬ。

それで會議が濟むと、U・P（米國通信社）の代表が私の處へ來て、之に就ての意見を述べて呉れといふから、私は、萬國議員會議なるものは、其のリミツトを知つて居れば非常に有効だ。卽ち、アミティとフレンドシツプとミニチユアル・アンダースタンディングをプロモートするといふ點に於ては、意義はある。處が、ワールド・ピースを確保するといふことになると、先づ第一にワールド・ピースの根本條件を考へなければならぬ。それを考へることになると、自由貿易の問題、移民の問題、資源の公平な分配といふ問題、領土の公平な分配といふ問題、色々な問題に觸れて來なければならぬ。更に突込んで言へば、現存の色々な條約——ヴエルサイユ條約、九箇

國條約等にも觸れて來なければならぬ。さうすると、波瀾が起きて議論が纏らぬ。だから、此の會議は各國間の友誼と相互諒解を增すだけの目的ならば役立つが、世界平和を確保することには役立たぬ。根本條件を研究する所まで行けば宜いけれども、さうすると意見が分れる。それで私は、權力なき正義は空虛である。正義なき權力は盲目（ブラインド）なものであると言つた。ところがU・P記者はそれを曲解して、權力（パワー）のないジヤスティスは無意義極まると罵つたやうに書いて、ハミルトンの意見と私の意見とを對立させて新聞に出した。併しそれは私の趣意を間違へたのである。私は、此の會議の主なる目的から言つて居る。第二段に行けば議論は紛糾して來るといふのが私の論で、私の論は飽く迄も正しいと今でも思つて居る。

それ程に、各國の議員間には切迫した空氣に襲はれたやうな氣分を持つて居つたやうである。けれども戰爭はなからうと考へて居つた者も、餘程多かつた。

各國の代表者は、我々と個別的に色々話し合つた。英國の代表者などは、從來日本の代表者につべこべ話しなどしなかつたものだが、今年は勞働黨の相當の人物が我々の所へ來て、どうして日本はドイツとばかり仲好くなるのであるかといふやうな質問を盛んに發して居た。アメリカの代表とも話した。又ポーランド、ブルガリア、ルーマニア等の諸代表とも話し合つた。唯、これ

らの小國代表は、第三者が聞くのを恐がつて、話す時に側を見つゝ、こそ〳〵話すのであつた。

二、露獨不可侵條約の發表

さて十九日に會議が濟んで、二日間ノールウエー政府の招待で、旅行に出かけた。非常に優遇して呉れた。其の旅行中は、ハンガリー、デンマークの代表者と仲好くなり、色々コンフイデンシアルな話をする機會があつた。それからストツクホルムへ行き、ヘルシンキへ行つて、そこで露獨不可侵條約の發表に接して驚いた。

其の時私は、アメリカのコールグローブ教授との會見談を思ひ出した。私はアメリカ經由でヨーロツパへ行く時に、シカゴへ寄つて、大山郁夫君の案内で、コールグローブといふ政治學の教授を訪問したのである。此の人は相當の人で、東洋のことに就ても研究して居る。著述もある。教授クラブで晝飯を御馳走になつて、四時間ほど話し合つた。其の時、コールグローブ教授が、「自分はベネシュと懇意にして居るが、彼の言ふにはドイツとロシアとは、益ゝ接近する可能性がある。其の一つの理由は、ドイツの品物をアメリカが排斥してなか〳〵買はない。二割五分かの稅金をかける。支那問題もあゝなつて居る以上は、ドイツの商品は東洋へ捌けない。經濟的に

考へて、ドイツはロシアと接近するより外ない。思想からいつても、今のドイツのナチの進み方は、コンミユニズムと大した違ひはない。殊にデイクテーターシツプで、デモクラシーを全然認めない政治のやり方で、トータリタリア・ステートの形を取つて居るから何等提携に反對すべき理由がなくなつて來て居る。だから兩國は益ゝ接近するだらう」と言つたねたといふ話でありました。そこで私は「私も經濟的の提携はあり得ると思ふ。ドイツからすれば、ロー・マテイリアルをロシアから入れ、ドイツから機械を賣つたり、技術的援助をして、相互援助をやることはあり得る。併し軍事同盟をやるやうなことは考へられぬ。ヒツトラーの『我が闘爭』を見ても、親英主義のことは大いに書いてあるが、ロシアに對しては、不俱戴天の敵と言つて居る。

ヒツトラーは相當イデオロギーを重んずる人物でもあり、(實際政治に當つては違ふが)今までさうして指導して來たのだから、同盟などやることはあるまい。あなたはどう考へる」と言つた所が、教授は「私も通商條約の締結、經濟關係を密接にすることはあり得ると思ふが、攻守同盟などはやるまいと思ふ」といふ話であつた。

ところが、ヘルシンキへ行くと、露獨不可侵條約が發表されたので、私はさてはと思つたのである。不可侵條約だから、勿論攻守同盟ではないが、(結果から見ると、ポーランドを分取りした

形になつて居るので）ベネシュが言つといふ言葉をヘルシンキで思ひ出したが、よく見て居るなと感じた。

三、大戰勃發前の空氣

フインランドでは、露獨同盟が出來ると非常に心配して、暑中休暇中の大學生は皆動員され、ロシアとフインランドとの國境に、塹壕掘りに數千名行つて居るやうな狀態で、大分緊張して居た。フインランドはボルシエヴイズムを非常に嫌ひ、ドイツに對しては好感を持つて居る。何故かといふと、フインランドは初めは太公國として、一種のセルフ・ガヴアーメントは持つて居つたが、ロシアの一部であつた。それが歐洲大戰に際して獨立する時に、ドイツが大分援助したので、ドイツを德として居る。かなり親獨的である。それで、ロシアがドイツと仲好くなると、ドイツがフインランドを援助して呉れなくなる。從つてフインランドに對するロシアの危險が益〻增加して來るであらうといふので、非常に心配して居た。

そういふ空氣の中を、エストニアのタリンへ渡り、更に八月二十七日にラトヴイアのリガへ行つた。リガは人口四十萬の大きな商業都市である。貿易も盛んである。

情報も盛んに入る所で、各國の新聞記者六十何名も來て居る。リガ電報は當てにならぬといふ評判のある位デマが亂れ飛ぶ場所である。ラトビア語を語ると共に、大抵ロシア語とドイツ語が出來るから、ドイツ側もロシア側も情報を得るに便利である。ドイツ人も有力者が居るし、下層には、ロシア系の人も相當居る。こゝでの話では、戰爭のプロバビリテイーが七割だと武官など言つて居つた。ドイツに居る日本人よりも、寧ろ戰爭の可能性を餘計考へて居た。私は二十八日に公使に會つたら、公使も「どうも英國の磅が非常に下つて來たから、戰爭の氣運は濃厚である」といふ。私も、ポーランド人の氣性を考へると、戰爭をやりさうだと思つた。

ポーランド人はチエツコ人ほど合理的に物を考へない。俗に言ふ『上ぼせ頭』である。戰はずして降るよりは兎に角一戰を試みる。一九二〇年にロシアと戰つて、ピルスドウスキーは相當成績を擧げて居る。個人としての兵隊は非常に强い。オスローでポーランド人と二日も三日も交際したが、氣性が烈しい。ロシアの屬國時代から革命運動をやつて居つた國民である。日露戰爭の時も、明石將軍はロシア革命を起さうとして、ポーランドの獨立黨を操縱した筈である。氣性から見てどうしてもやるといふ印象を持つて居つた。

私共は早速、ポーランドに入らないと、ドイツへも入れぬやうになるかも知れぬと憂へた。ど

ん〳〵國境が閉鎖されてゐる。ワルソーからドイツへ行く國境も閉鎖された。私はポーランドのダンチツヒに於ける官吏と會ふ約束をして、準備して居つたが、そこにもとう〳〵行けなくなつてしまつた。

切符はダンチツヒ、ワルソーを經てベルリンまで買つて居つたが、それが駄目になつてしまつた。それでも私は一人でポーランドへ入らうと思つた。

處がポーランドが國境を閉鎖してしまつて、もう入れぬ。已むを得ず淺沼君と二十九日に最後の飛行機で、リガからリスアニアのカウナスといふ所に飛んだ。カウナスからドイツのハンザ飛行機で東プロシヤのケーニスベルグへ行つた。そこには既にドイツの軍用機が澤山あつた。ケーニスベルグで晝飯を食べて、これから海の上を飛んでベルリンに行つた。

テンペルスホーフの飛行場に着いて見ると、そこにも軍用機が澤山あつた。若者は少しも居らぬ。少年隊がポーターになつてゐる。愈々動員だ。所謂ヒツトラーユーゲントといふよりも、もつと若い十五、六歳の少年が、皆ポーターになつて居る。是は危いと思つたが、兎も角も、少し樣子を見やうぢやないかといふので、三十日、三十一日、九月一日と、ベルリンに居つた。

處が、一流のホテル・エスプラナードに居つたが、そこでもお客は一人も居なくなつて、僕と

淺沼君だけになつてしまつた。シヤボンなども一つもない。それでも、日本人の間では、戰爭はないだらう。オーストリーもチエツコも、嚇しつけて取つたんだから、今度も動員で嚇して、解決するだらうといふ意見が相當あつた。勿論ドイツの政策はさうであつたのである。是は疑ひない。私の知つてゐるベルリンの辯護士もさう言つて居つた。ヒツトラーの主義は、戰爭せずして國威を發揚する點にある。オーストリー併合も、チエツコ併合も、ラインランド武裝も今迄一兵に血らずして解決して居る。それでヒツトラーの信用は增して來た。戰爭すれば、ヒツトラーの信用は落ちる。だから戰爭はすまいと思ふ。二十代前後の若いヒツトラー青年は、ロシアの共產黨の青年と同じで、現在の時節を謳歌して居るが、四十以上の、歐洲大戰の經驗を持つ者、さうして產業に直接關係して指導的地位にある者は、戰爭を嫌つて居るから戰爭はなからうといふ意見であつた。處が、とう〳〵ポーランドと戰爭が始つた。それでも宣戰の布告がなかつた。

四、勃發當時の民情

私は八月三十日、三十一日と動員を見たが、少しも熱がない。熱がないのは、此の前チエツコを併合した時と同じ流儀で、動員で嚇して解決すると思つたものらしい。其の點からいふと、後

でヒツトラーが、ポーランド問題が解決したから、英佛と我々と戰ふ必要がなくなつたと言つたのは、本人は眞劍に言つて居るのでないかと思ふ。一日になつて、大使館と相談したら、特別の用事のない者は成るべく避難して貰つたが宜い。無用の犧牲になると困る。殊に北さんの居る旅館は、ヒツトラーの事務所に近いから、爆彈は一番先に來ますよといふ話。大使館でも、我々も戰爭が始まれば、ベルリンとパリは爆彈の投合ひが始まるだらうと思つて居つた。戰爭になれば段々出にくゝなるし、ねても仕樣がないから、遂にドイツを去ることにした。

それは何故かといふと、英・佛の新聞はドイツへは來なくなつた。夜は、一日から燈火管制が開始された。食物も、ホテルに居つて高い金を出せばあるが、一般は切符制度になつて碌なものは食へぬ。ホテルの暗い部屋でゲツベルスの宣傳文書ばかり讀んで居つても仕樣がない。ドイツに居ては、一番ドイツが分らなくなつてしまふ。成るべく早く中立國へ出て、諸方の新聞を讀んだ方が宜い。そこで九月一日にハンブルグに行つた。其の時、ラヂオの放送で、外國のラヂオを一人で聽いた場合には監獄へ入れる。多數集合して聽いた時には死刑に處するといふ事が發表された、愈ゝ愚民政策が徹底する。是はいかぬといふので、二日の朝、ハンブルグを立つてデンマルクのコペンハーゲンに行つた。

コペンハーゲンへ來ると、ドイツの新聞は手に入るし、ハンブルグの新聞などは夕刊が其の翌日入る。英國のものも、フランスのものもエヤー・メールで來た。處が戰爭が始まつて一週間後になると、エヤ・メールでも來なくなつた。一週間に一遍づゝ固まつて來たがなか〳〵面白い材料が來る。ドイツの社會黨の總務をしてゐたオツト・ウエールス（前大戰後、ベルリンに革命が起きた當時、警視總監になつた有力者）が、フランスに行つてナチス排擊の新聞を出して居る。さういふのも手に入る。其處で三週間待機して居つた。さうしてデリー・メール、ロンドン・タイムス、フランスのタン、マタン、ドイツの新聞などは毎日來る。コペンハーゲンは百萬も人口があつて、夏期盛んに人の入込む所で、書物もアツプ・ツウ・デートの物が澤山本屋に竝んで居る。大きな新聞社が本屋を兼業して居る。そこで私は本を買つたが、アメリカで手に入らぬやうな材料もあつた。

そこで私は思つた。アメリカでは金を多く使ふだけに、一番情報を受入れられるに違ひない。ルーマニアのブカレスト、ハンガリーのブダペストからも來るであらう。交戰國の電報は、檢閲で骨拔になるだらうが、中立國から來る情報は、一番よく集まるだらう。そこでデンマークからアメリカに行つた。來て見て、アメリカの情報の好いのに驚いた。ロンドン・タイムスなど比較

にならぬ。U・P、A・Pは勿論、各地のコレスポンデントから來る好い材料がある。そこで私はアメリカで約一月位滯在して各方面の人々と會つた。殊に私は、新聞記者と學者に重きを置いて數十人の色々の人に合つた。官吏に會つても、本當のことは言はぬのだ。代議士はオスローで十人位と談し合つたので、今更會ふ必要はなかつた。

五、今次大戰の原因

さて私は、この旅行に依つて得た材料に依つて今度の歐洲戰爭の原因、性質、並びに其の見透し等について次に述べて見たい。

原因は言ふ迄もなく、ドイツにあると云つて宜からうと思ふ。とは言へ、それはドイツが惡いといふ意味ではない。今度の戰爭で、ドイツは攻勢的になつて居る。英國は現狀維持で、戰爭はせずに置きたいといふ氣持は、飽く迄持つて居るやうである。唯、ドイツは戰爭せずにポーランド問題を解決出來る確信を持つて居つた。軍備は今の處では非常に優勢である。

「ディフェンズ、オブ、ブリテン」(英國の國防)といふ書物にも書いてあるが、チェッコの三十二箇師團の精鋭なる武器をドイツの手に入れた。一部はイタリーの好意を得んが爲に、イタリ

ーにやつたらしい。だが、大部分は持つて居る。だから、ドイツの武裝は、勝れて居るに相違ない。準備も或る程度は英佛よりは進んで居つたに相違ない。大學なども、戰爭前に全部鐵柵を除いてしまつた。戰爭が始まれば、斯うして、斯う統制すると、あらゆる方法が完備して居つた。そこへ行くと英佛は準備が遲れて居た。だから、ドイツのオーストリー合併の時も、何ともすることが出來なかつたし、チェッコの場合にも、フランスは少し强硬であつたが、チエンバレンが弱氣で、ズデーテンをドイツに讓るやうな妥協策を取つたのは準備が不十分であつたからである。それはあらゆる點から考慮される。ドイツは斯く戰爭準備が出來て居たから是で威嚇すれば、ポーランド問題は解決出來ると考へた處が英國は、今まで威嚇されて、ラインランドの武裝問題にも讓り、軍備擴張問題にも讓り、オーストリー合併、チェッコ合併にも讓つて、是以上讓り切れぬやうになつた。ポーランドの侵略を默つて居つたならば、第三國は皆英國から離れてしまふ。戰はずして英國は二等國に落ちるといふ破目になつたので、英國も、ドイツがポーランドを攻めれば起つといふ肚が決つて居つた。一方、何故ドイツがロシアと組んだかといふと、經濟的の必要も勿論あるが、直接的の原因は、私は、此の二國が不可侵條約を結んで居れば、英國は起ち得ない。從つて戰はずしてポーランド問題が解決出來るといふ確信から來たものと思ふ。丁度ビス

マークがナポレオン三世と爭つた時に、ロシアに妥協的態度になつたのに似てゐる。此の前の歐洲大戰でドイツが失敗したのは一面は英佛と戰ひ、他面はロシアと戰つたからである。ドイツとしてはその覆轍を履みたくなかつたのである。

併し本當から言へば、ドイツは英國と戰ひ、またロシアと戰はねばならぬ筋合になつて居る。今迄の歷史では、ヨーロッパに於てはスラブ族とチュートン族とは、絕えず睨み合つて居る。此の前の歐洲戰爭を概觀すると、二つの性質がある。

即ち、ドイツが海上勢力となつて進出しようとした。英國は既に海洋帝國としての實を備へて居る。ドイツの脅威にあつて、是ではいかぬといふので、ドイツとイギリスの爭覇戰となつた。一半は、やはりスラブ族とチュートン族の爭ひで、セルビヤ人がオーストリアの皇太子を殺したので、オーストリアが動員した。そして一方、セルビヤを擁護せんが爲に、ロシアが動員し、オーストリアを助けん爲にドイツが動員して、あの大戰になつた。

是はバルカンに於けるスラブ族の勢力と、チュートン族の勢力との衝突である。

一體、スラブ主義が實現するか、チュートン主義が實現するかは、結局バルカンをどつちが支配するかに依るので、玆にバルカン問題の重大さがある。第一次歐洲大戰は、此の二つの性質を

持つて居つた。長い眼で見れば、どうしてもドイツはチュートン族の盟主として、スラブ族と爭はなければならぬ。しかし、東西同時作戰では、ドイツに勝目がない。のみならず今ロシアを相手に戰へば英國に漁夫の利を占められる。此の前の時と同じ結果になるから、英國に利用されてはならぬといふ目先の利害を考へて「我が鬪爭」に書いてある原理を今度は犧牲にしてロシアと手を握り、英國と對立する形になつたのだらうと思ふ。ロシアとしても、今ドイツと爭つて得る所は一つもない。

六、ロシアの目的とする所

私はボストンで、有名なウイリアム・カレッヂの國際事情通シューマンといふ教授の、二千名も集めてやつたコンミュニチイ・チヤーチの演說を聽きに行つた。此の人の意見は、非常に面白い。ロシアが今度ドイツについたのは、當然だといふ議論である。何故かといふと、チエンバレンがロシアに對して同盟を申込んだのは無理である。あの時に、ロシアは、バルチツク諸邦の保障を要求したと傳へられたが、實はバルチツク諸邦そのものを要求したに違ひない。バルチツク諸邦の知識階級、經濟的に裕福な階級にはドイツ人が多く、ドイツの勢力が非常に强い。歐洲大

戰後も、義勇軍を組織してリガを占領し、ロシアを脅した。今ではバルチツク海に於ける海軍力もロシアの比でない。ドイツが陸を行つてこれらの諸邦を占領してしまへば、レニングラードを爆擊することは樂である。ロシアとしてはドイツと爭ふ際、自分の國境で自國を守り得ないことは明かである。リスアニアまで出て、そこで自國を防衛したい。處が、英國がそれを認めれば、バルチツク諸國はロシアの進出の危險を感ずる。英國は其の點を非常に顧慮したに相違ない。だから、それは容れなかつた。

今一つ、ロシアの要求したのは、今ロシアが占領してしまつてゐる地方のポーランドを得たいといふことであつたに相違ないといふのである。是は又極めて自然で、無理がない。今日、日本などでも新聞雜誌の論調は、ロシアが空巢狙ひをやつたやうに云つて居るが、私に言はせれば、ロシアは狡いのでない。といふのは、ボルシエビーキ革命の際、ロシアでは反動派と復辟派とが相爭つた。その混亂に乘じて、ポーランドのピルスヅキーがウクライナ獨立（ポーランド國内にはウクライナ人が三分の一居る。三分の二は露領に住んで居る）を夢見て兵を起した。さうして有名な露波戰爭が起きた。トハチエフスキー、トロツキー、スターリン等の活躍したのは、此の時である。一度はロシアに敗られさうであつたが、兵を南に迂廻さして、側面攻擊をやつた。有

名なカウンター・アタツクといふピルスヅキー戰術になつて居るのであるが、それで大成功してロシア兵を驅逐した。さうしてあの國境が出來たのである。即ち、ポーランドとロシアとの媾和會議で出來たので、ヴエルサイユ條約で規定した區域でない。だから、ポーランドがドイツを敵にして、弱り切つて居る時に、ロシアが欲しいと思ふのは無理もない。のみならず、ロシアとしてはそこまで進出しなければ、ドイツがポーランド全部を侵略してから、ロシアの國境で戰ふことになる。何處も取つてはならぬ、自分の國境で守れといふ英佛との軍事同盟は、ロシアに取つて何等の價値もない。またロシアが今度取つたポーランドの部分には、ホワイト・ロシア人とウクライナ人が千百萬人も居る。是はグリーク・カソリツクで、人情風俗もポーランドとはまるで違ふ。それだけに、ポーランドが今度潰れたのは、背後にゐる彼等のサボタージが大いに關係して居る。謂はゞポーランドは、少し大きくし過ぎてゐたのだ。ヴエルサイユで色々な國を立てたが、餘り小さい國を作れば潰れるし、大きくすれば種々の異民族を包容して自己矛盾に苦しむ、ポーランドはその大きくなり過ぎた國であつた。ポーランドは、ヨーロツパ第一の貧乏な國の割に極端な軍備擴張をして居つた。兒童の四割迄は、小學校へ行けないといふ位にまで無理をして軍備を整へて居つた。人民は一年に四十萬宛殖えて、三千三百萬になつて居つた。ドイツの進出

を恐るゝロシアとしては、このポーランドの或る部分まで進出したい。バルチツク諸邦を占領して、國防の安全を圖りつゝ英國と提携して行かうといふ考へであつた。處が、チエンバレンはポーランドの保障もして居るので、それに反對した。

尤も、このポーランドの保障といふことに就ては、餘程逃路がある。獨立の保障はして居るが領土の保障はして居らぬ。これはダンチツヒ、コリドール、其の他國境問題には、多少訂正の餘地があることを意味して居る。だからロシアが今度占領したポーランドの土地に對して今更あれを還せとは英國は一切言つて居ない。狡いやうであるが、それが事實である。あの地方をポーランドが取つたことに無理があつたのである。ドイツも、あんなものはあつても仕樣がない。ロシアを侵略する時は無論取るだらうが、協調する時には純ポーランド人が住んで居る所も欲しくないだらうと思ふ。むしろロシアと國境を接せぬやうに小さな緩衝國でも作る積りではないか。ドイツは、バルチツク諸邦に對しては垂涎三尺だけれども是はロシアに讓つたに違ひない。さうしてバルカンに或る程度まで進出しやうとして居るのでないかと思ふ。即ち、バルチツクにロシアの進出を認める代りに、バルカンに對するドイツの進出に就ては、ロシアが或る程度諒解して居るのではないか。ドイツはバルカンへ進出して、ダニユーブ河を收めなければ、ロシアとドイツ

が經濟的援助條約を結んでも、餘り効果はない。ポーランドの道は惡いし、鐵道は破壞されて居るし、黑海からダニユーブ河を溯つて行く方が宜い。即ち、ドイツとしては、ダニユーブ河とラインを運河でつないで居るし、ラインランドからダニユーブへ品物を出すのが順序である。經濟的に考へても、ダニユーブ平原は、經濟的の一單位となるもので、元の墺匈二元帝國は、其の點からして、經濟的には實に立派な拵へ方であつた。あれを滅茶々々にして、小さくしたのは間違つて居る。今度の戰爭は、ヴエルサイユ條約の間違ひを訂正する意味が非常にあると思ふ。

七、海洋國と大陸國の對立時代

結局、戰爭の原因は、ドイツがヴエルサイユ條約に滿足せずして、一民族一國家といふ思想でドイツ人の居る土地を還せといふのであつたが、それだけではドイツ人は十分に食つて行けないので更に生活圈を欲しいといふ主張になつて來て居る。是は尤もと思ふ。ダニユーブを下つて行きたい。又ロシアとしては、不凍港を一つでも二つでも欲しい。ペルシヤ、アフガニスタンでも英露角逐の歷史はなか〳〵長い。昔のドイツ皇帝とロシアと妥協した時は、極東へ出ようとして日露戰爭を始めた。ロシアの今迄の歷史は、海へ出ようとする歷史である。單なる領土野心とか

帝國主義とか考へることは無理でないか、あゝいふ大きな經濟的單位を持つ國で、立派な海港を求めるのは無理もないと思ふ。或る意味では、今度は無理のない同士の戰爭と云へる。英國も、スエズが英國の生命線であるから、飽くまでバルカンを英國の味方にしようといふのが、戰爭の原因となつてゐる。

由來英國は歐洲大陸に於て、强大國の出來ることを欲しない。ナポレオン一世が强かつた時には、これを袋叩きにした。この前、ドイツが强かつた時にも、歐洲大戰で袋叩きにした。地中海を支配し、スエズを支配する國は、これを認めないといふのがその建前である。ロシアを排擊したのもさうだし、今度ドイツに對して警戒したのもそれだらうと思ふ。エチオピア問題で、イタリーに楯ついたのもそこから來て居る。其の點から云ふと、正にヨーロッパの最大强國と英國との爭ひである。今はスラブとゲルマンとの爭ひは暫く緩和して、互にレーベンスラウム(生活圏)の協調時代ではないかと思ふ。戰爭が進行して、ドイツが優勢にでもなれば、またドイツとロシアとの睦み合ひが生ずるかも知れぬ。ヨーロッパの禍根は、スラブとチユートンとの爭ひにも存して居る。此の前の大戰ではこの兩方が一緒に來たのである。

私は、今度の戰爭は、イデオロギーの戰ひではないと思ふ。露獨不可侵條約の前に、英國はロ・

シアに向つて軍事同盟を要求した。英國は今トータリアン國家の結合といつて、これを攻擊して居るが、それなら何故自分はロシアと同盟を求めたか。英國としては、イデオロギーの爭ひは少しもない。デモクラシーを守るなどいふことは嘘だ。唯ヨーロッパに於て、最も强い國が出來て地中海を支配し、スエズを脅かす國の存在を許さぬといふ建前から來て居るのだ。ではイデオロギーの戰爭ではなく、如何なる種類の戰爭になるかといふと、戰爭の原因はレーベンスラウムを求める爲の戰爭であるから、レーベンスラウムを求めるに都合の好い國同士が固まると思ふ。

詰り經濟的に提携し、援助し得るやうな國が自然に固まるのではないか。其の點から云ふと、我々の想像出來ないやうな現象が出て來るかも知れぬ。私の言葉で言ふと、海洋國と大陸國の對立が生じはせぬかと思ふ。

例へば、支那にしても、汪兆銘の新政權が出來る。蔣介石は段々奥へ行つて、ロシアと接近せざるを得なくなる。是は共產主義に共鳴する爲でなく、自分の勢力維持の爲に、地理的、經濟的軍事的事情から已むを得ず向ふへ行く、卽ち大陸國の中に入る。また汪兆銘は、どういふ方面と接觸しなければならぬかといふと、彼の支配すべき土地は、海岸方面であるから、英國やフランス、アメリカと貿易しなければならぬ。卽ち海洋國の中に入る。だから日本が、汪兆銘を立てつ

つ彼が英、米、佛など〻商賣を盛んにすることを排斥するならば、それは矛盾する事になる。是は汪兆銘を立て〻殺すことである。それでは汪兆銘は兎も角、一般支那人が困る。戰爭が長く續けば、戰爭は消費事業であるから、一面生產しつ〻消費しなければ續かない。その生產も、軍需工業國でない以上は、平和產業による商賣である商賣をしつ〻戰爭するのである。處が、日本もやはり海洋國同士で、商賣をしなければならぬ。勿論、滿洲の豆をロシアの鐵道でドイツへ送ることは出來るが、賣つてもドイツの物がどれだけ買へるか。ドイツの製造能力は、戰時中は落ちる。日本へ賣るべき機會は益〻少くなる。

是は貿易としても大して見込がない。無論やつても差支へない。互ひに交戰國ならざる限りは生產しつ〻消費するといふ原則から言つて、餘程仲の惡い國でも、貿易だけはやつて行かなければならぬ。

さうすると、ドイツとロシアは商賣せざるを得ない。蔣介石はロシアと連絡する。大陸國同士が自然に固まる形になる。一方、イギリス、フランス、アメリカ、イタリーが海洋國として固まる。私はイタリーも決してドイツに加らぬと思ふ。鐵も、石炭も、石油もドイツからは來ない。ドイツの感情を害しない程度に於て、海洋國と商賣をやる。日本も同樣に海の方に力を持つて居

る。日本の海軍は國防の安全を圖ると共に通商を擁護する。海洋國の特色は、戰爭中でも或る程度の貿易をして行く所にある。其の特色を最大限に發揮して、戰爭で損失した分を相當恢復しはせぬか。是はイデオロギーの問題でない。

八、世界情勢の見透し

處が、日本はさういふ姿勢を整へるとして、支那に於て英、米、佛の權益を、どの程度まで認めるか。こゝをはつきりする必要がある。即ち支那に於ては、機會均等といふことに贊成出來ない。地理的、經濟的に軍略的に、日支の關係は他の第三國とは別なんである。第三國同士同等といふことは宜しいが、日本と同等といふことは出來ない。併し日本は支那をモノポリーする必要はない。エクスクルーシブ・モノポリーは必要でない。其の中間である。さうしてあなた方に貿易の自由を與へよう。かういふ事をはつきり第三國に言はなければならぬ。日本人はそれをはつきり言はないが、私は今度の旅行でどん〳〵言つて來た。我々は支那に對して經濟的提携で支那の原料を欲する。それを利用して日本が技術的援助をやつて行く。日・滿・支は一民族一民族孤立しては食つて行けない、一種のフェデレーション時代が來た。アメリカも、イギリスも、ソヴイ

エットも、一つのブロック經濟を作つた。それでも足りぬから貿易しようとして居る。日本も大いに貿易しなければならぬが、極く必要なものは、軍事的勢力の及ぶ範圍内に於て、これを調へる必要がある。ヨーロッパに於てもヴェルサイユ條約のやうな原理は古びてしまつて、再び昔に還るべくもない。歐洲大戰前と後を比較すると、歐洲に國が八つ殖えた。今度は八つや十、國が減ると思ふ。今度の戰爭でドイツが勝つか負けるか分らぬが、假りに負けたとすれば、ドイツはドイツとして一國となり、今度又オーストリーのやうな國を作つて、バルカンを統一するより外ないが、若しドイツが勝てばドイツを引つ括めたユニオンが出來る。日・滿・支の聯盟もかうしたグレート・リージョナリズム（大地域主義）の現はれである。それが新しい政治學上の原理である。日本も其の大勢に乘りつゝあるのだ。ヨーロッパに於て然り、アメリカに於ては既に實現されて居る。日・滿・支の關係に於ては、日本がリーダーシップを取る。文化的、殊に工業的に發達した國が、リーダーシップを取り、農業國が押へられるのは當然である。私は日・滿・支の聯盟も世界の新しい政治的原理の一つの現象と見て行く。この立場で行かなければならぬ。今迄のやうな行き方では、日本が勝手に理窟を言つて居ると思はれるだけである。

支那問題の解決は、結局、汪兆銘が店開をして、商賣をやることである。商賣が繁昌して、住

民共が堵に安んずる。さうすれば蔣介石もロシアと固つて居るよりは、今度はノーマルな形で生活したいといふ事になつて、けりがつく。日本が汪兆銘の商賣を邪魔して、彼を我々のロボットにしようとしたら、結局第二の王克敏を作り、第三の梁鴻志を作るだけで、或は吳佩孚の如く明哲保身で逃げてしまふかも知れぬ。日本としては、排英とか、排米とか、排露とかいふイデオロギーを捨てるのだ。さうして世界の大淸算時が來たんだから、その推移を眺めて居て、戰爭中でもどの國とも商賣して行く。

私は、排英など愚論だと思ふ。日本が東洋問題の解決をやり損つたのは、いつもアメリカの横槍である。英國の横槍でやり損つて居らぬ。シベリア出兵の時もアメリカは先に撤兵して、日本にも之を强要した。尼港事件で、日本が樺太を占領した時も、アメリカが横槍を入れて撤兵させた。石井・ランシング協約に於て認められた日本の支那に於ける特殊地位も否認された。ワシントン條約では日本を靑島から追出した。九箇國條約然り。日英同盟の廢棄もさうだ。日本の今迄のアジア政策の失敗は總てアメリカの横槍である。然るにアメリカに踏まれても蹴られても頭を下げて英國だけを虐めて、東洋問題が解決すると見るのは間違ひである。日本には非常に卑屈な所がある。しかし、アメリカにも言ふべきことは斷乎として言はなければならぬ。それを日本は

アイ、ベツグ、ユア、パードンである。大使も言ひ切らぬ。領事も言ひ切らぬ。

支那の侮日は、ワシントン會議から始つたのだ。餘りに侮日が癖に觸つたから、滿洲事變が起きた。滿洲を失ひ始めたら、支那は今度は日本を憎み始めた。共產主義と結ばうが、ロシアに半分やらうが日本に半分取られるよりは宜いといふことになつた。私は、對米外交の整調をせずして、支那問題は解決せぬと思つてゐる。英國を香港から驅逐する位では駄目だ。支那はインターナショナル、マーケツトである。現在は大した事でなくとも、米國は將來性を考へて居る。支那は東洋のバルカンである。ロシアがバルカンを支配しようとして出て來れば、英國はトルコを助けてクリミヤ戰爭をやつた。ドイツがバルカンを獨占しようとすれば、イタリーも、英佛も、ロシアも反感を持つ。あの小さい所でもドミネートしようとすれば、ヨーロツパの强國全部を敵にする形になる。況んや支那を日本獨りでやるのは、世界戰爭を日本一人で引受ける覺悟がなければ出來ぬ。支那問題を解決するのは何處まで讓つて何處を握るかといふ問題である。獨占も出來ない。日本は何を握つて何を外國に許すか、といふことをはつきりしなければならぬ。

話が一寸脫線したが、要するに、一種の大きなフエデレーションの形でなければやつて行けない。勿論ヨーロツパのユナイテツド、オブ、ユーロツプ(歐洲聯盟)なんて出來るものでない。歷

史が違ふ。言葉だけでもヨーロツパには五十四ある。フロロジイの方から言ふと、迚も固まれるものでない。それで私は大體に於て、アメリカは南北アメリカへ伸びる。日本は東亞(バイカル以東)並びに南へ伸びる。ロシアは半アジア半ヨーロツパでベルシヤ邊りに伸びる。日本は、ロシアをベルシヤからインドへ出して、英國と衝突させる方が得策である。それでドイツがバルカンへ出て來れば、英國の東洋に於ける勢力、ロシアの勢力、バルカンのドイツ勢力、其の三つがいがみ合ふ時代が來るかも知れぬ。ヨーロツパとアフリカの關係は、イギリス、フランス、イタリー、ドイツの中、强い者が繩張りが多くなり、弱い者は繩張りが少くなる。今度の戰爭もさういふ見透しを以て考へると大きに意義がある。ヴエルサイユ條約其の儘を維持するより、其の方が意義があると私は見て居る。イギリスからすれば、自分の勢力範圍が侵蝕される事になるが、然し彼の好むと好まざるとに拘らずヨーロツパは何等かの形で、清算されなければならぬ。是が私の見透しである。

九、獨逸の內情

細かい論としては、先づドイツの內情であるが、私は、ドイツは現在、國防は非常に充實して

居るが、また弱點もあると思ふ。オーストリーを合併し、引續いてチェッコを合併したが、是等が心から結合して居らぬ。私はヨーロッパからアメリカへの船中、オーストリーから來たニューヨークの大學の教授と一緒であつたが、其の人は次のやうに言つて居つた。「オーストリーはドイツ人が多いから、ドイツとの合併を求めて居つた。所が合併後は、皆不滿を感じて居る。勞働時間が多い。稅金を多く取られる。それで仕事は生產的の仕事でなく、道路を作らしたり、堀を掘らしたりして、彼等の必要でない戰爭に使つて居る。それでオーストリー人は、非常に不滿を感じて居る。チェッコも小さい國ながら好かつた。今日はドイツの荒武者に押へられて不平滿々である。チェッコは大戰後に出來た國としては一番成功して居つた國で、政治も經濟の發達も好かつたし、アメリカなどは非常に同情を持つて居つた。それをドイツは取つてしまつた。」これは其の通りである。兎に角今は非常に不自然な現象が起きてゐる。政治上の自由を失つて居りながらも、外に得る所はない。オーヴアーワークで、まづい物を食ひ、稅金を餘計取られる。此の三つで喜ぶものはない。ドイツは內部的に非常に弱點がある。

又ドイツには各方面の地下運動がある。ヒツトラー派の中でストラツサーが殺された。あの兄が外國に逃げのびて、其の一派が反ナチ運動をやつて居る。一時はプラーグで放送局まで設けて

絕えず放送をやつて攪亂して居た。もう一つは軍人である。フリツチュ將軍は戰死したといふことになつて居るが、どうも私は暗殺ではないかと思ふ。あれはナチス反對の有名な將軍であつた。ドイツ人の中でヒツトラーに眞正面に物を言へる人間は二人しかない。それはシヤハトとフリツチュであつた。シヤハトは經濟のエキスパートでヒツトラーは憎いけれども、あの意見を用ひざるを得なかつた。シヤハトは嘗てヒツトラーに向つてお前は今俺を大切にして居るけれども、其のうちには殺すだらうと言つて爭つたことがある。フリツチュは、一番有名な戰略家であつたがブロンベルグが、六十九才で二十三才の大工の娘と結婚して問題を起した時に、軍の意向を代表して反對した。ブロンベルグはナチスに忠實であつた。フリツチュはナチス嫌ひで、ヒツトラーの眼の上の瘤であつたので、ブロンベルグを辭めさせる時にフリツチュも辭めさした。それを今度の戰爭になつて、豫備から出してやつた。どうも怪しい戰死である。ナチスの幹部の前身を調べて見ると、人格者はヘツス、フリツク位なもので外はなか〳〵亂暴者が澤山居る。ギヤングのやうなのも多少居る。成上り者が權力を振つて居る。元龜大正時代と思へば間違ない。ゲーリングなど相當人氣があるといふけれども怪しい。あれの前身を見ても、第一次戰爭の時に有名な飛行隊に加はつて二十何機か落して武勳赫々たるものであるが、休戰になつてからドイツから軍の

飛行機を持出して、コペンハーゲンに行き、變な女を十人も引連れて遊んで、ホテル賃は倒す、警察の御厄介になつて、とう〳〵オスローへ逃げ出したり、ストツクホルムへ行つたり、彼の歴史を見るとなか〳〵女蕩しである。今は女優と結婚して居るが、彼はヒツトラーよりは一般には好かれるやうである。ヒツトラーは崇拜されて居る方で、好かれるといふのはゲーリングであらう。併し軍の一部にはナチに對し相當に反感のあるのは事實である。又共産黨が大分居る。これは例の勞働組合を止めて、アルバイトフロントと言つて日本の産業報國聯盟のやうなものを拵へた。それを指導して居るのは一番の左翼で、殆んど社會主義に近い。コンミニストが假裝轉向して入つて居るのだ。一番左翼の人でなければ産業報國聯盟を指揮出來ない。是は事實である。

それから昔の社會民主黨は今勢力がない。實にだらしなくなつてしまつた。即ち社會革命以後に天下を取つた時分の幹部は五十以上であつた。其の後今日まで十數年も經つて居るから長老になり、好々爺になつて、金は出來るし立派な新聞は持つてゐた。ダラ幹になり切つてしまつた。戰鬪力がない。それが共産黨と分裂して、力の弱つた時にヒツトラーが立つたので一押しもなく潰れた。シヤイデマンなんか、コペンハーゲンによぼ〳〵と日向ぼつこなどして居る。オツトー・ウエールスなどは、ドイツの革命後に獨立社會黨と警視總監を爭つて、多數社會黨の警視總監に

なつたので、偉らい勢力を得たのであるが、もう長老で、今はフランスやイギリス其の他中立國に、昔の古い社會主義を以て呼び掛け、ナチスを人類共同の敵など〻書いてゐるが、これは有力でない。

もう一つドイツの弱點は中産階級が急速に沒落しつ〻あることである。是等が相當不平を持つて居る。ナチスが最初興つて來た時には中産階級を救ふといふ標榜であつた。處が、今は中産階級が落ちて來て、却つてプロレタリヤがよくなつて來て居る。さうして軍需工業が盛んなので、農村を捨てる者が多く、爲に農村は非常に荒れて居る。青年は眞面目に仕事するよりも、ヒツトラー青年隊に加はつて訓練なんかやつて居る方が出世するといふ感じになつてゐるらしい。丁度日本で、昔は六法全書を研究して高等文官の試驗をパスすれば出世するといふ、法學士過剩生産があつた如く、今日はヒツトラー青年の過剩生産がある。大學の學生も眞面目に勉强する者が少い。政治的に活動した方が出世が早い。玆に餘程缺點があると思ふ。それで戰爭がうんと長びけばさういふ危險性が增大して來ると思ふ。

經濟的の方から見ると、イギリスも金は少く、三十億ドルとアメリカ邊りで評價して居るが、ドイツは三千萬ドルだらうといふ。物を買ふだけのキヤツシユはない。農産物を買ふにも、機械

を賣らなければならぬ。其の機械がどれだけ作れるか、疑問である。戰時は勿論平時の生産能力は保てない。ドイツの如く機械部隊が多い所は、一人の兵隊に對して八人半の軍需工業勞働者が要る。飛行機其の他の極く進んだ機械部隊に對しては、十二人の割に要る。二百萬人を動員すれば八人半で千七百萬も要る。手不足を來した時に機械をどん〳〵作つて、ロシアに賣るだけのものが出來るか。英佛はキヤツシュがあるから買つて來られる。キヤツシュがなくともアメリカなど助けてくれる。現に米國人などはカナダに五十億ドル投資して居るさうである。さういふ狀態で英佛は補充がつく。ドイツは是から機械を拵へて物を買ふことになると、生産能力はそれ程あるまい。トランスポーテーションも餘程惡くなつて居るさうである。トラツクなども動員するとなか〳〵損傷が出る。人造石油も平時の需要量五百萬瓲の三分の一强位しか拵へて居らぬ。戰時に千萬瓲要るとすれば、其の補充は大變である。ルーマニアから取れば宜いといふが、歐洲大戰の經驗では、ルーマニアを取つた年は十萬瓲、其の翌年は百萬瓲しか利用して居らぬ。本當の激しい戰爭になると、ドイツは石油に困りはせぬか。食糧もドイツは不自由せぬと言つて居るが、果してどれ位あるか。農村が荒れてゐるといふ位だから、食糧も疑問でないかと思ふ。ロシアのトランスポーテーションは惡い。スターリンの演說を見ても、生産は宜いけれどもトランスポー

テーションが惡い爲に、配給が惡い。ロシアはドイツにどん〳〵物資を持つて來ることは出來ない。石油なども多く出した年で二百萬瓲程度で、それを全部ドイツに持つて來る譯にも行かぬ。ロシアはドイツの參らない程度に補給をするだらう。ロシアとしては、英佛も弱れば得である。雙方疲れるのを待つ政策である。

十、日本の進むべき道

日本としては、無理にドイツと親しむ必要はない。併し、今まで仲好くなつて居つたのだから仲惡くならぬやうに努める必要がある。さうしてこちらは何處の國とも商賣の出來る限りはした方が宜い。日本から考へると、英國はロシアに宣戰布告をする處だけれども、宣戰布告處か、密接な通商關係を維持して行かうとして居る。是は長く戰爭して、長く多く消費するには、長く多く生産しなければならぬといふ經濟的原理から來るのでないかと思ふ。日本も其の原理から眺めて支那問題を解決せぬとやり損ふ。今までは日本の政策は米國の横槍でいつも中途に挫折して居る。英國は決して恐るゝに足りぬ。今ヨーロツパで戰爭して居るのに、東洋でしたことは出來もせぬ。併し一部には英國が歐洲でやつて居る間に、英國を東洋から叩き出すやうに言ふ人もある

が、さうすれば英國とドイツが東洋の犠牲に於て、ヨーロッパに於て妥協するといふ形を、却つて人爲的に起させるかも知れぬから、留守中に亂暴するやうなことは避けて、日本はやはり支那の新秩序建設に全力を注ぐべきものでないかと思ふ。

（完）

397
419

昭和十五年二月十五日印刷
昭和十五年二月二十日發行

版權所有

動亂の歐洲情勢

【非賣品】

東京市赤坂區青山南町二ノ六三
編輯發行兼印刷人　渡邊卓哉
東京市芝區田村町六ノ一三
印刷所　日本協會印刷部

發行所　東京市赤坂區青山南町二ノ六三
日本協會出版部
電話青山(36)〔六九一五番〕〔六六二七番〕
振替東京一〇七、九三〇番

安い掛金で我が家が建てられます

電建 住宅

人國計設・眞寫
内案業營
呈贈
(ハ以今ガハ人記名誌本
イサド込申御テニ話電)

は蒸桂鄕の地貸賣と定選御の地敷
すまり居てしを話世おに並仕奉

——所業營地各——

崎川（羽赤・袋池・門雷・田反五・座銀）京東
岡福・鶴八・戸神・堺（町橋舟・堀戸江・六天）阪大

五五一二影御電	前停電早石上國阪區淀市戸神	店	本
七七八七谷西電	前停電目丁三宿新區谷四市京東	所業營總	京東
一六八六著長電	目丁二町衣羽區中市濱横	店支	濱横
九八一中　電	目丁一町砲鐵區中市屋古名	店支	屋古名
九五九三松濱電	二ノ三四二町田市松濱	店支	松濱
〇四三八下　電	側西ル下原松通丸烏市都京	店支	都京
二七二五戎　電	丁番五地新波難區南市阪大	店支	阪大
三五一倉小電	前停電町坂大市倉小	店支	倉小

それには日本一秀れた月拂法と、日本一の契約高を持つ「電建」へ

日曜・祭日・夜間も御來社歡迎

住宅建築專門
株式會社 日本電建

終